

ミナミアカヒレタビラ コイ目タナゴ科

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

国カテゴリー 絶滅危惧 I B類

Acheliognathus tabira jordani Arai, Fujikawa and Nagata

選定理由

潟やそれに通じる水路で確認されているが、産卵床となる淡水二枚貝の生息場所が減少しているため、今後個体数の減少が懸念される。

形態

幼魚の背鰭に出現する黒斑や、卵の形状、口髭の長さなどから他のタビラと区別できるとされている。

国内分布

富山県、石川県、鳥取県、島根県。

県内分布

輪島市、七尾市、志賀町、羽咋市、小松市、加賀市。

生態

他のタナゴ類と同様に、淡水産二枚貝に産卵する。

生息地の条件

産卵に利用するための淡水二枚貝類が生息していること。

生存の危機

水路がコンクリート化され、産卵に利用する二枚貝類の生息環境が消失している。(A)

特記事項

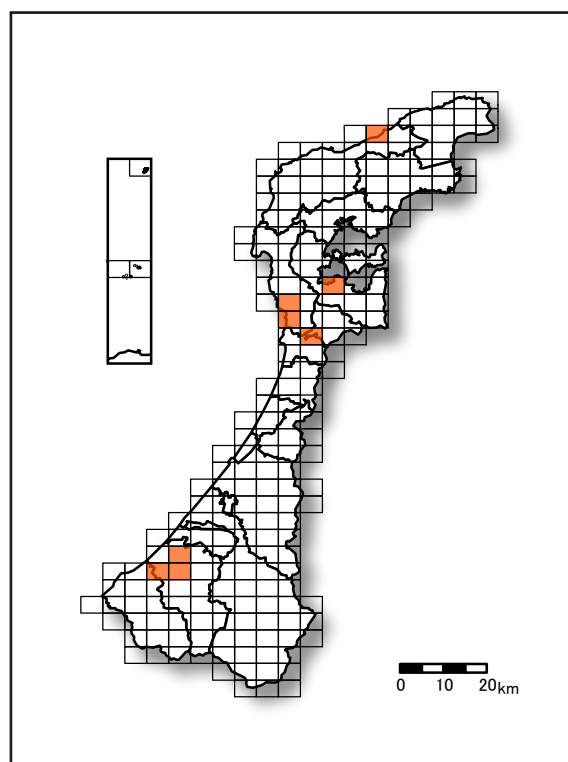
国カテゴリーでは、絶滅危惧 I B類。ただし、アカヒレタビラなどを *Acheliognathus tabira* subsp. として扱っている。新井他 (2007) ではアカヒレタビラを5亜種としていることから、今回はその分類に従った。

参考文献

平井賢一 1975. 能登半島における淡水魚の分布. 金沢大学日本海域研究所報告7:1-18.
Arai,R.,H.Fujikawa,and Y.Nagata 2007. Four New Subspecies of *Acheilognathus* Bitterlings (Cyprinidae:Acheilognathinae) from Japan.Bull.Natl.Mus.Nat.Sci.,Ser.A,Suppl. 1. :1-28.



写真提供者: 山本邦彦



県内の分布